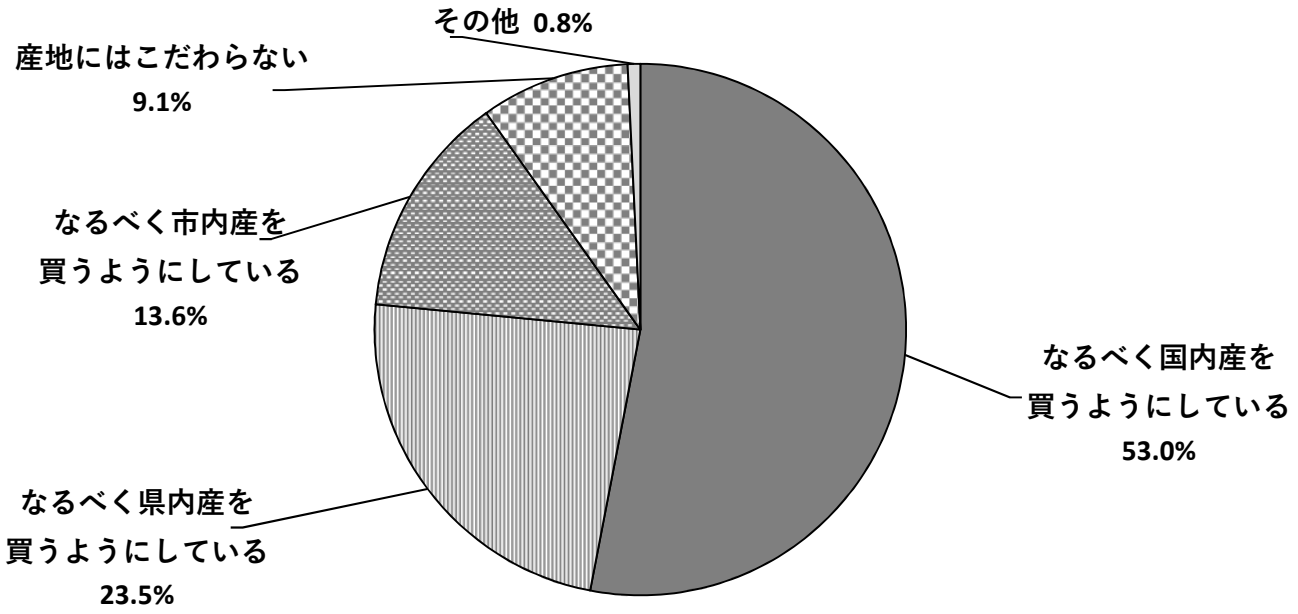
（農林水産物を購入する際、産地をどの程度考慮するか）

問8　あなたは農林水産物を購入する際、産地（生産された場所）をどの程度考慮しますか。

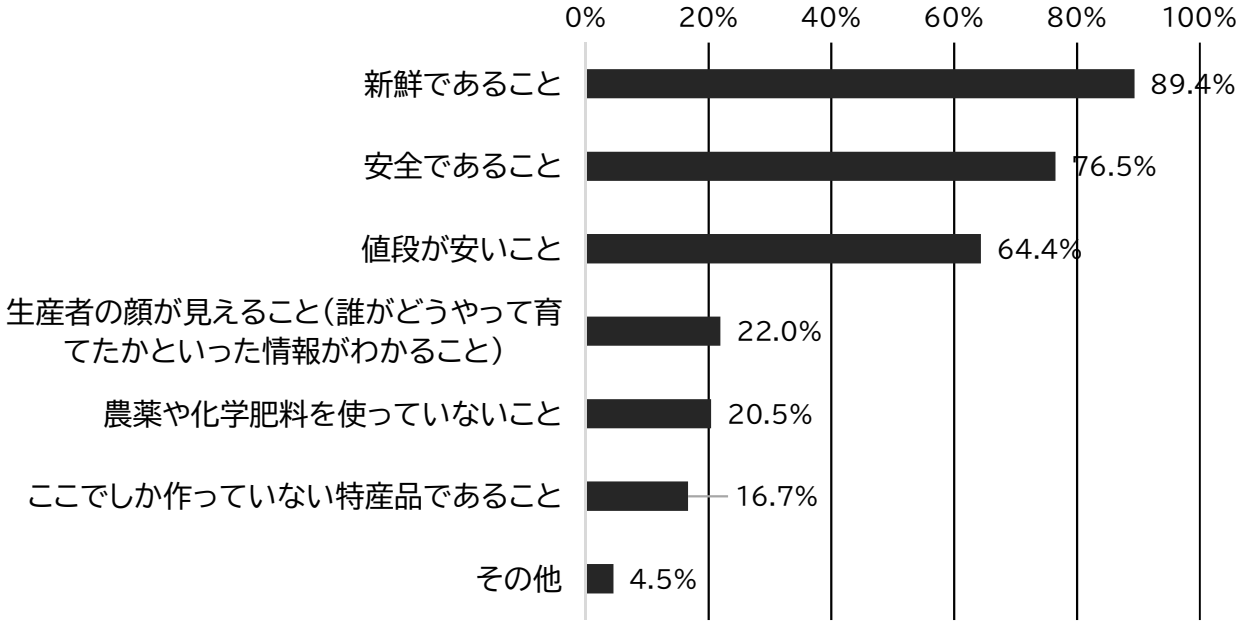


		回答者数	なるべく国内産を買うようにしている	なるべく県内産を買うようにしている	なるべく市内産を買うようにしている	産地にはこだわらない	その他
全体		132	53.0%	23.5%	13.6%	9.1%	0.8%
性別	男性	57	45.6%	24.6%	19.3%	12.3%	0.0%
	女性	75	58.7%	22.7%	9.3%	6.7%	1.3%
年代別	20歳代	17	47.1%	29.4%	5.9%	17.6%	0.0%
	30歳代	16	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	40歳代	22	63.6%	27.3%	0.0%	9.1%	0.0%
	50歳代	20	50.0%	15.0%	30.0%	0.0%	5.0%
	60歳代	21	61.9%	4.8%	23.8%	9.5%	0.0%
	70歳代	32	46.9%	31.3%	15.6%	3.1%	0.0%
	80歳代	4	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	14	57.1%	0.0%	14.3%	21.4%	0.0%
	小倉北区	24	58.3%	16.7%	12.5%	12.5%	0.0%
	小倉南区	28	50.0%	39.3%	3.6%	7.1%	0.0%
	若松区	13	61.5%	7.7%	30.8%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10	40.0%	40.0%	10.0%	10.0%	0.0%
	八幡西区	33	48.5%	30.3%	21.2%	3.0%	0.0%
	戸畑区	10	60.0%	10.0%	0.0%	20.0%	10.0%

「国内産」と答えた方は 53.0％で半数を超えています。次いで「県内産」が 23.5％、「市内産」が 13.6％でした。50 歳代以上では「市内産」を選ぶ方がいますが、40 歳代以下では「市内産」を選ぶ方がほとんどいないことが伺えます。20 歳代から 30 歳代では「産地にはこだわらない」という方が他の年齢層よりも多くなっています。

（市内産の農林水産物を進んで買ってもらうために重要であると考えること）

問9　あなたは市内産の農林水産物を進んで買ってもらうためにはどのようなことが重要であると考えますか。選択肢の中から重要だと思うものを3つ選んでください。

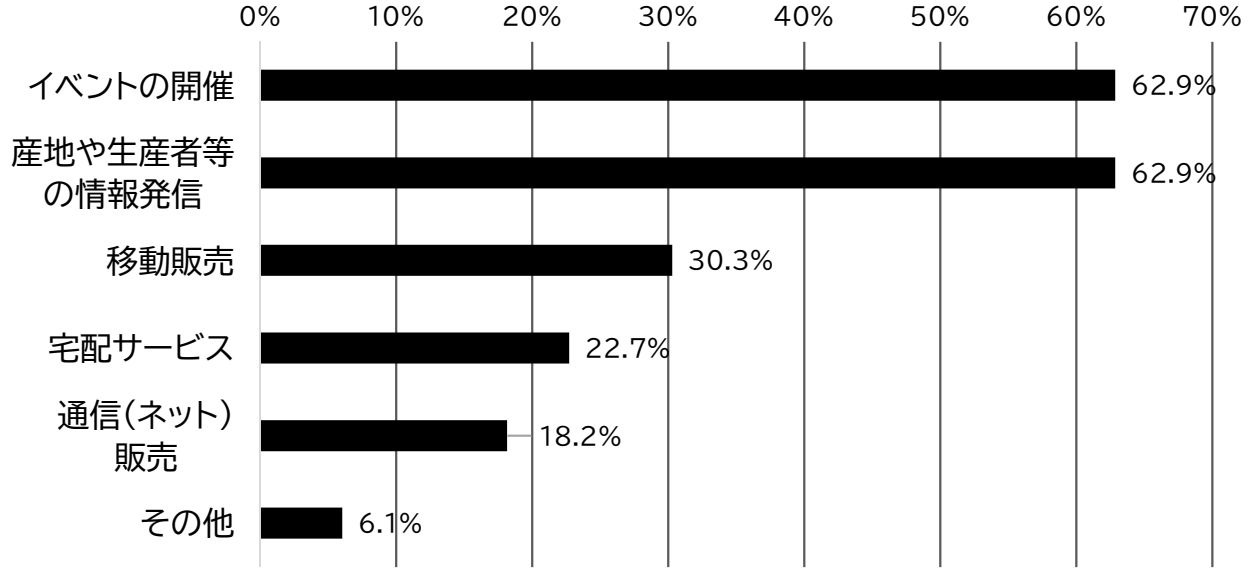


		回答者数	新鮮であること	安全であること	値段が安いこと	生産者の顔が見えること（誰がどうやって育てたかといった情報がわかること）	農薬や化学肥料を使っていないこと	ここでしか作っていない特産品であること	その他
全体		132	89.4%	76.5%	64.4%	22.0%	20.5%	16.7%	4.5%
性別	男性	57	86.0%	78.9%	64.9%	28.1%	17.5%	14.0%	5.3%
	女性	75	92.0%	74.7%	64.0%	17.3%	22.7%	18.7%	4.0%
年代別	20歳代	17	88.2%	76.5%	70.6%	5.9%	17.6%	5.9%	5.9%
	30歳代	16	75.0%	81.3%	75.0%	12.5%	12.5%	12.5%	6.3%
	40歳代	22	90.9%	77.3%	72.7%	18.2%	9.1%	27.3%	13.6%
	50歳代	20	95.0%	70.0%	55.0%	25.0%	30.0%	15.0%	0.0%
	60歳代	21	85.7%	61.9%	85.7%	19.0%	23.8%	28.6%	0.0%
	70歳代	32	96.9%	84.4%	43.8%	37.5%	21.9%	12.5%	3.1%
	80歳代	4	75.0%	100.0%	50.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	14	92.9%	78.6%	64.3%	14.3%	7.1%	14.3%	0.0%
	小倉北区	24	75.0%	75.0%	62.5%	25.0%	25.0%	33.3%	0.0%
	小倉南区	28	96.4%	78.6%	71.4%	17.9%	17.9%	17.9%	3.6%
	若松区	13	84.6%	76.9%	92.3%	23.1%	23.1%	7.7%	0.0%
	八幡東区	10	100.0%	90.0%	60.0%	10.0%	20.0%	10.0%	10.0%
	八幡西区	33	87.9%	78.8%	48.5%	30.3%	24.2%	9.1%	6.1%
	戸畑区	10	100.0%	50.0%	70.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%

市内産の農林水産物を進んで買ってもらうために重要であると考えることについては、「新鮮であること」が 89.4%と最も多く、次いで「安全であること」が 76.5%、「値段が安いこと」が 64.4%となっています。

（市内産の農林水産物の消費を増やすために効果的だと思うこと）

問10　あなたは市内産の農林水産物の消費を増やすためにはどのようなことが効果的だと思いますか。選択肢の中から効果的だと思うものを2つ選んでください。

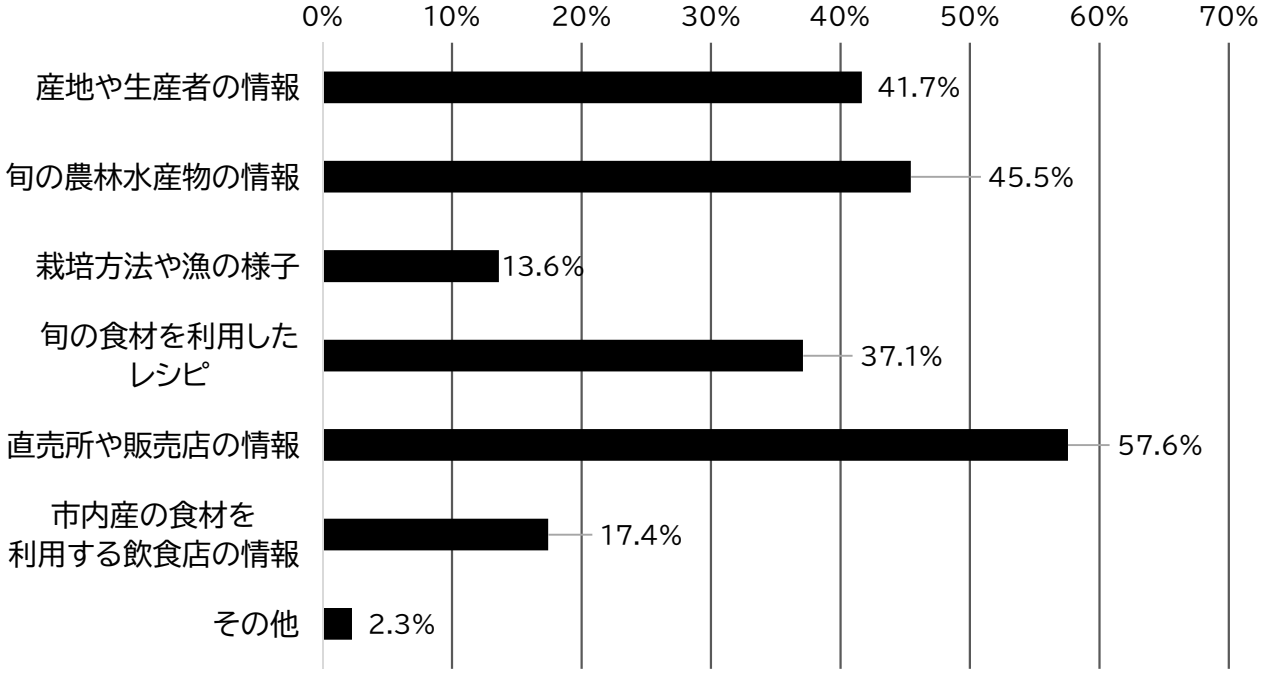


		回答者数	イベントの開催	産地や生産者等の情報発信	移動販売	宅配サービス	通信(ネット)販売	その他
全体		132	62.9%	62.9%	30.3%	22.7%	18.2%	6.1%
性別	男性	57	61.4%	68.4%	29.8%	15.8%	17.5%	7.0%
	女性	75	64.0%	58.7%	30.7%	28.0%	18.7%	5.3%
年代別	20歳代	17	52.9%	47.1%	29.4%	47.1%	23.5%	0.0%
	30歳代	16	50.0%	37.5%	18.8%	50.0%	43.8%	18.8%
	40歳代	22	50.0%	77.3%	31.8%	9.1%	22.7%	9.1%
	50歳代	20	70.0%	45.0%	40.0%	25.0%	20.0%	5.0%
	60歳代	21	81.0%	61.9%	42.9%	14.3%	9.5%	0.0%
	70歳代	32	68.8%	81.3%	18.8%	12.5%	6.3%	6.3%
	80歳代	4	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	14	57.1%	50.0%	42.9%	28.6%	21.4%	0.0%
	小倉北区	24	62.5%	54.2%	29.2%	25.0%	25.0%	12.5%
	小倉南区	28	82.1%	57.1%	21.4%	17.9%	10.7%	3.6%
	若松区	13	38.5%	69.2%	23.1%	15.4%	46.2%	0.0%
	八幡東区	10	50.0%	80.0%	30.0%	20.0%	10.0%	0.0%
	八幡西区	33	60.6%	75.8%	39.4%	21.2%	9.1%	6.1%
	戸畑区	10	70.0%	50.0%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%

市内産の農林水産物の消費を増やすために効果的だと思うことについては、「イベントの開催」と「産地や生産者等の情報発信」がそれぞれ 62.9%で並び、次いで「移動販売」が 30.3%となっています。

（どのような情報があれば市内の農林水産業に理解が深まると思うか）

問11　あなたはどのような情報があれば市内の農林水産業に理解が深まると思いますか。選択肢の中から効果的だと思うものを2つ選んでください。

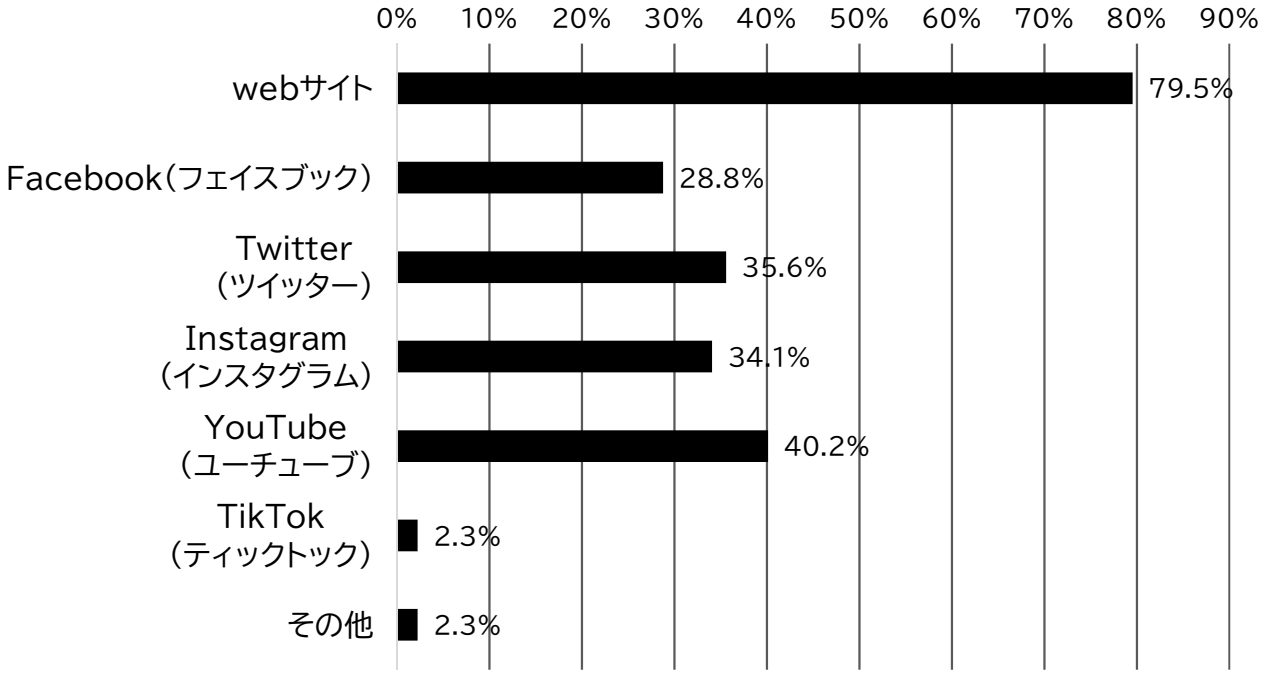


		回答者数	産地や生産者の情報	旬の農林水産物の情報	栽培方法や漁の様子	旬の食材を利用したレシピ	直売所や販売店の情報	市内産の食材を利用する飲食店の情報	その他
全体		132	41.7%	45.5%	13.6%	37.1%	57.6%	17.4%	2.3%
性別	男性	57	54.4%	57.9%	14.0%	15.8%	56.1%	14.0%	3.5%
	女性	75	32.0%	36.0%	13.3%	53.3%	58.7%	20.0%	1.3%
年代別	20歳代	17	17.6%	17.6%	5.9%	64.7%	47.1%	17.6%	11.8%
	30歳代	16	25.0%	37.5%	6.3%	50.0%	68.8%	31.3%	0.0%
	40歳代	22	36.4%	50.0%	13.6%	54.5%	36.4%	22.7%	0.0%
	50歳代	20	40.0%	40.0%	5.0%	50.0%	75.0%	25.0%	0.0%
	60歳代	21	52.4%	61.9%	19.0%	19.0%	57.1%	19.0%	4.8%
	70歳代	32	56.3%	56.3%	18.8%	12.5%	62.5%	3.1%	0.0%
	80歳代	4	75.0%	25.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	14	14.3%	42.9%	7.1%	50.0%	50.0%	14.3%	7.1%
	小倉北区	24	37.5%	37.5%	29.2%	33.3%	66.7%	25.0%	4.2%
	小倉南区	28	39.3%	42.9%	7.1%	42.9%	60.7%	17.9%	0.0%
	若松区	13	61.5%	53.8%	7.7%	30.8%	46.2%	7.7%	7.7%
	八幡東区	10	40.0%	40.0%	0.0%	40.0%	80.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	33	48.5%	54.5%	9.1%	30.3%	45.5%	15.2%	0.0%
	戸畑区	10	50.0%	40.0%	40.0%	40.0%	70.0%	40.0%	0.0%

どのような情報があれば市内の農林水産業に理解が深まると思うかについては、「直売所や販売店の情報」が 57.6%と最も多く、次いで「旬の農林水産物の情報」が 45.5%、「産地や生産者の情報」が 41.7%となっています。

（SNS 等を利用して農林水産物の情報を収集しようとする際に利用するツール）

問12　あなたは SNS 等を利用して農林水産物の情報を収集しようとする際に、どのようなツールを利用しますか。利用頻度の高いものを3つ選んでください。



		回答者数	webサイト	Facebook（フェイスブック）	Twitter（ツイッター）	Instagram（インスタグラム）	YouTube（ユーチューブ）	TikTok（ティックトック）	その他
全体		132	79.5%	28.8%	35.6%	34.1%	40.2%	2.3%	2.3%
性別	男性	57	82.5%	36.8%	36.8%	24.6%	47.4%	3.5%	3.5%
	女性	75	77.3%	22.7%	34.7%	41.3%	34.7%	1.3%	1.3%
年代別	20歳代	17	64.7%	11.8%	52.9%	76.5%	35.3%	0.0%	0.0%
	30歳代	16	81.3%	18.8%	37.5%	43.8%	50.0%	6.3%	0.0%
	40歳代	22	86.4%	36.4%	50.0%	31.8%	31.8%	0.0%	0.0%
	50歳代	20	70.0%	35.0%	35.0%	40.0%	45.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	21	85.7%	23.8%	23.8%	23.8%	47.6%	4.8%	4.8%
	70歳代	32	84.4%	34.4%	21.9%	12.5%	40.6%	3.1%	6.3%
	80歳代	4	75.0%	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	14	71.4%	42.9%	21.4%	35.7%	50.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	24	75.0%	16.7%	41.7%	41.7%	45.8%	4.2%	0.0%
	小倉南区	28	78.6%	21.4%	46.4%	21.4%	32.1%	3.6%	7.1%
	若松区	13	84.6%	30.8%	46.2%	38.5%	38.5%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10	80.0%	30.0%	40.0%	50.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	33	81.8%	33.3%	24.2%	33.3%	45.5%	3.0%	3.0%
	戸畑区	10	90.0%	40.0%	30.0%	30.0%	40.0%	0.0%	0.0%

SNS 等を利用して農林水産物の情報を収集しようとする際に利用するツールについては、「web サイト」が 79.5%と最も多く、次いで「YouTube（ユーチューブ）」が 40.2%、「Twitter（ツイッター）」が 35.6%となっています。

（地産地消の取組や市内の農林水産業・農林水産物に期待すること）
問13　地産地消の取組や市内の農林水産業・農林水産物に期待することがあれば、ご自由にご記入ください（一部抜粋）。

・　飲食店と生産者のつながりを作る機会を設ける取り組みがあればいいと思う。

・　地場産の野菜売り場をよく利用するが、時折、見たことのない野菜が並んでおり、気にはなるが味や使い方が分からず買うのをやめてしまう。詳しい説明があるともっと興味を持たれるのではないか。

・　糸島のようにもっと北九州の農産物を若者にブランディングした上で PR すべき　産地名も必ず「北九州産」と野菜にラベリングするべき。

・　ブランド化の努力はすすんでいるし、商品価値は高いと思う。しかし、打ち出しや発信は他市他県に遅れている感は否めない。首都圏、関西圏への売り出しや、この地域で駅や空港の広告にブランド農水産物が登場し、目につくことも必要ではないか。

・　近所に規格外品の野菜などを扱っているお店があり、とても重宝している。こういうお店が増えていくといいと思う。

・　旬の食材を使った料理を含めた栄養バランスの良い献立を提案して欲しい。

・　北九州産と書かれた食材をスーパーで買うだけなので、情報発信の仕方の再考を強くお願いしたい。

・　北九州市は、山がとても荒れていると感じる。特に竹林はかなり酷い状態である。これらを、公的な投資をすることで「林業」として復活させると、人を呼び込むこともできる。

・　休耕田なども細かいルールを取り払うことで、誰でも取り組むことができるようにしてみてはどうか。規制が人の流入を阻み、北九州市の良さを消している気がしている。

・　地元の農林水産物は鮮度も高く、比較的安価であるから、周知と理解が進めばもっと普及していくのではないか。この点でスーパーなどでの販売や道の駅のような共販的な施設が拡大することが理解に結び付くのではないかと思われる。

・　道の駅のような直売所が近所にあれば、休日にまとめ買いで利用しやすい。

・　県外から転居してきたため、他県では目にし難い水産物（あかもく等）は購入をためらう。なじ

みの少ないものについては、農協などで試食の機会を増やすなどして、初めの一歩へのハードルを低くすると良いのではないか。北九州を地元とする市民だけでなく、一時的な転入者もターゲットにした幅広い施策を期待する。

・ 合馬の筍や関門海峡タコは、地元の市民が気軽に食べられるように食べられるようにならないか。

・ 北九州市が誇れる農林水産物を全国展開するウェブショップ店の設立をお願い致します。

・ 玄界灘、周防灘に面し、農作物ももっといろいろあるはずだが案外店頭では見かけない。知らずに店頭に並んでいるかもしれないが、環境に恵まれている割には地元産の認知度が低いのではないか。行政の施策を待つばかりではなく農協、漁協の意識、自助努力が足りないのではないか。

・ 大いに購入したいと思いが、販売している所が少なすぎる。直売所の増設、スーパー、デパートに販路拡大、多様なイベントを利用し、移動販売車で販売してはどうか。

・ スーパーの一角に地産の農作物が生産者の名前入りで出荷されていますが、種類が少ないことや、値段が少し高いように感じる。もう少し多く出荷されると、新鮮でおいしく食卓にあがるのではないか。

全体考察

　このアンケートは、令和4年度～8年度を計画期間とする「北九州市農林水産業振興計画」の策定の参考とするため、「多面的機能」及び「地産地消」の市民の認知度や理解の程度等を調査することを目的として実施しました。

【多面的機能について】

〇多面的機能の認知度

　「多面的機能」という言葉を「知っている」と答えた方は 18.9％にとどまり、「知らない」と答えた方は約半数の 49.2％となったことから、「多面的機能」の認知度があまり高くないことが伺えます。

〇農林水産業と多面的機能の関係性

　農林水産業が営まれていることが「多面的機能」に役立っていると思うと答えた方は、「そう思う」と「どちらかというとそう思う」と答えた方を合わせると 74.3％となっており、農林水産業と多面的機能との関係性については、ある程度理解されていることが伺えます。

〇多面的機能の維持のための関わり方

　「多面的機能」の維持のために自身ができることについては、「市内産農林水産物の積極的購入」と答えた方が 53.8％となっており、半数以上の方が「購入」という間接的な形での関わりを指向しています。

　また、「草刈りや間伐などのボランティア活動への参加」と答えた方は 40.9％となっており、直接的に関わたいという方も一定程度いることが伺えます。

【地産地消について】

〇地産地消の認知度

「地産地消」という言葉を知っている方は 90.9％となっており、「聞いたことはあるが意味までは知らない」が 1.5％、「知らない」が 6.8％にとどまっていることから、「地産地消」については、ほとんどの方がその趣旨について理解していることが伺えます。

〇産地の指向性

　農林水産物を購入する際に、なるべく買うようにしている産地として、「国内産」、「県内産」、「市内産」と答えた方を合わせると 90.1％となっており、国産指向が強いことが伺えます。

　このうち、「市内産」をなるべく買うようにしていると答えた方は 13.6％ですが、40 歳代以下の年齢層では答えた方がほとんどおらず、若年層の方には、市内産の農林水産物が認知されていない、または、あまり魅力を感じていないといった可能性があります。

○市内産農林水産物に求められること

市内産の農林水産物を進んで買ってもらうために重要なこととして、「新鮮であること（89.4％）」、「安全であること（76.5％）」、「値段が安いこと（64.4％）」の三つが特に高い割合となっています。市内産農林水産物には、新鮮で安全、かつ安価であることが求められていることが伺えます。

【市政モニターに関すること】

北九州市広報室広聴課（TEL：５８２－２５２７）

【アンケートに関すること】

北九州市産業経済局農林課（TEL：５８２－２０７８）